

過去5年間の平均年間数量と2018年度実績

地域ネットワーク	事務局	リサイクルロンドぎふ 2006年スタート 21団体	リサイクルロンドながの 2002年スタート 61団体	ぎふ・ながの 合計
回収	74,260kg	617,358kg	691,618kg	
販売	434ケース	2,318ケース	3,115ケース	
回収	66,600kg	105,160kg	171,760kg	
販売	535ケース	2,990ケース	3,933ケース	

岐阜と長野の二つの福祉作業所ネットワークが展開するトイレトペーパー・ティッシュペーパーの販売事業は、ここ数年毎年過去最多販売実績を更新し続けていますが、今期は特に年明けからの新型コロナウイルス騒動により、スーパー店頭からトイレトペーパーが消えるという現象が影響して注文が集中、大きく販売量を伸ばしました。

リサイクルロンド
ぎふ・ながの

リサイクルロンド事業

古紙リサイクルを通しての
福祉作業所支援プロジェクト

資源リサイクルによる福祉作業所活性化事業



リサイクルロンドぎふ



リサイクルロンドながの

また愛知県東海市で行っている「エコラ東海」の学乳パック回収事業では、二部の学校へのトイレトペーパー納入が始まり学校での循環システムが組みあがってきています。上記2県のシステムと合わせ、東海市では、地元福祉作業所が学乳パックの回収と中間処理を行うことで、リサイクルの仕組みができています。の、今期から発生している乳業メーカーや回収業者の引き取り拒否により、各地で学乳パックの処理が大きな問題になっています。

引き取り手のないまま廃棄処分をせざるを得ない自治体も数多く出てきています。当協会にもいくつかの自治体から相談が寄せられ、地元の福祉作業所との連携により、古紙リサイクル・地域循環システム構築の可能性を探る機会となりました。紙パック回収とトイレトペーパー販売は、個々の福祉作業所にとつて下請け作業などとは違い、主体的取り組みの中で一定の成果を見ることが出来、また福祉作業所の地域ネットワークを活性化させます。今期は新たな地域のリサイクルロンド事業を生み出し、行くために、各地に情報発信していきたいものです。



エコラ東海

また今年度のエコプロでは、酒パック再生品の使用促進という意味から、酒促進協として会員社貯金箱を3銘柄制作。



エコプロに説明員として参加

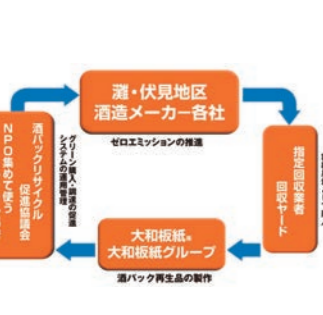


貯金箱

昨年度の事業計画に記載していた会員企業の積極的活動参加という点では、印刷工業会の回収紙パックの組成分析調査に3社が参加し、エコプロ展にも説明員として8社が参加するなど一定の成果をあげました。また協議会負担での貯金箱制作、酒促進協の活動紹介リーフレットの製作と、計画されていたすべてを実現しました。



活動紹介リーフレット



灘伏見地区で統一的な回収システムがスタートして12年、工場の充填紙回収は順調に進んでいます。ただ再生品利用という出口が確立していないと十分なシステムとして機能しているとは言えません。灘地区での再生品利用を見てみると、レギュラー的に製作されていたパットが、最盛期の41品目から今年度は12品目と大幅に減少しており、今後いかに再生品活用を拡大できるかが循環システムとして機能していると言えそうです。

灘伏見地区で統一的な回収システムがスタートして12年、工場の充填紙回収は順調に進んでいます。ただ再生品利用という出口が確立していないと十分なシステムとして機能しているとは言えません。灘地区での再生品利用を見てみると、レギュラー的に製作されていたパットが、最盛期の41品目から今年度は12品目と大幅に減少しており、今後いかに再生品活用を拡大できるかが循環システムとして機能していると言えそうです。

灘伏見循環システム

会場配布すると同時に定量をそれぞれの企業で活用、販促活動にも使え、社内期待が持てる結果となりました。

灘・伏見地区回収量

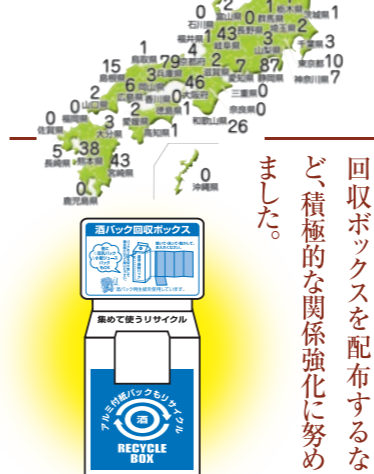
地区名	メンバー	昨年度	当初からの計
灘地区	白鶴酒造/日本盛/大関/菊正宗酒造/沢の鶴/辰馬本家酒造/小西酒造/オエ/ンホールディングス/関西社トリング	47,110kg	967,172kg
伏見地区	月桂冠/宝酒造/黄桜/伏見清酒パック協同組合/北川本家/齋藤酒造/招徳酒造/玉乃光酒造/錦正酒造/豊澤本店/都鶴酒造/山本勘藏商店/山本本家	42,600kg	527,713kg

今年度は、各社が自覚的に環境型の企業体質を作ることを目指していきたいと考えています。その一つが灘伏見循環システムを円滑に回してゆくと、各社の再生品活用を今一度活性化して行くことにあります。またすべての酒造メーカーの再生品使用を促進すべく協議会内部に専門的な機関をもつていきたいと考えます。



エコ酒屋分布図

2020年3月現在
登録数
455店舗



ただ昨今の社会状況は、飲料用紙パックリサイクルにとってはなはだ厳しいものであり、過去発行の3号のリサイクル事例を紹介するというものから、いかに現在の状況を踏まえた中で有効な発行物にするかが今後の検討課題となります。街の回収拠点「エコ酒屋」の回収拠点としてスタートした「エコ酒屋」は、全国での登録数483店舗を数えたのを最後として、年々減少の一途をたどっており、現在登録数こそ455店舗を数えるものの、実態としては相当減少していると思われます。ただスタート当初から酒パックの店頭回収を継続し、コンスタントに回収協力してくれている店舗も各地に一定数存在します。それら地方で頑張るエコ酒屋の取材に取り組み、回収に励む店舗に新たな回収ボックスを配布するなど、積極的な関係強化に努めました。



事例集Vol.1~3



開催3日間の総来場者数
147,653人

エコプロ2019の出展では、各地の福祉作業所が取り進む酒パックの再生カレンダー等を展示したことにより新宿中央公園内のエコギャラリー新宿担当者から、年末開催の環境カレンダー展に、企業のカレンダーとともに福祉作業所製の酒パック再生カレンダーを展示したいとの依頼があり、エコギャラリー新宿で数点展示公開されました。

アルミ付飲料用紙パックリサイクルプロジェクト

ALMprj.19

資源回収・再生促進のための仕組みづくり事業

ALMprj.19では2013年にVol.3を発行した後6年間発行できていないアルミ付紙パックリサイクル事例集を制作すべく編集会議がスタートしました。

街の回収拠点「エコ酒屋」

状況が踏まえた中で有効な発行物にするかが今後の検討課題となります。

エコプロ2019

とき12月5日(木)~7日(土) ところ東京ビッグサイト

地方で頑張るエコ酒屋

奥出雲地区エコ酒屋紹介

資源回収・再生促進のための仕組みづくり事業

奥出雲地区(雲南市・奥出雲町・飯南町)は、島根県東部・中国地方の山間部に位置し、神話とたたらの里として知られます。この地域では、雲南小売酒販組合に加盟する12店が2011年にエコ酒屋として登録、酒パックの回収をスタートさせました。その後廃業する店舗も相次ぎ、昨年組合自体も解散することとなりましたが、登録当初からコンスタントに酒パック回収に取り組み2店舗を紹介しています。

(有)大森商事

飯石郡飯南町頓原



リカーハウスおおもり店長 大森 昇一郎氏

大森家は代々頓原で事業をされており、江戸時代は

(有)坂根出店

雲南市木次町寺鐘

坂根出店で扱う商品は、多岐にわたっています。酒類の他パンや牛乳などの日配品や野菜、果物。お菓子やあらゆる日用雑貨品に



代表取締役 石田 周三

靴まで並んでいる町では珍しくなつたよるずやの業態です。以前は弁当や仕出しもしていたとのこと。近隣にスーパーやコンビニが無いため、このような品揃えが重宝されるようすが、売り上げはほとんど食料品が大半を占めるとのこと。地域には高齢者が多いため配達には絶対必要なサービスとなります。回収ボックスには酒より牛乳パックの持ち込みが多いようです。代表の石田氏は、雲南小売酒販組合最後の理事長。現在は他の組合員と共に、出雲小売酒販組合に統合されています。